

# ★タマネギモドキ

〔Nの症状〕

午後4時半下校。この頃から、軽い不快感を感じた。しかし気とめなかつた。

午後5時15分頃、帰宅。「疲れた。」と言い、昼寝をする。

午後6時半頃、Hが吐いた事を聞き、急に吐き気を催す。同2度吐く。午後7時、医者に行き、薬を服用、以後、何ら異常はなかつた。

〔Hの症状〕

- |       |  |
|-------|--|
| 午後4時半 | 下校。何ら異常なし                                  |
| 午後5時半 | ひどく疲れたような感じ                                |
| 午後6時半 | 目がチカチカして、貧血症状となる                           |
| 6時半   | 貧血が激しくなり、顔面蒼白、立てなくなる。<br>吐き気を催す。食塩水を飲み、吐く。 |

## たまねぎもどき *Scleroderma cepa* Pers.

扁球形、径2~4cmくらい、根元に白い根（菌糸束）がある。表面は初め白く、こすると暗紫色に変色する。成熟すると暗褐色に変り、紛塊となる；胞子は球状、紫褐色、表面に針状の突起をおび、8~12μ。春・秋一樹下地上に群生。食用にならない。分布：日本、欧州 北米。きわめて普通。（ニセショウロ目、ニセショウロ科）

—原色日本菌類図鑑による—

—なお、現物を見たい人は菌類班まで申し出てください。—

## ニセショウロ属 きのこの中毒記

あの根田先生が高校生のときにニセショウロ属きのこの中毒記（タマネギモドキ）を食べて中毒した、という中毒記が発掘されました。原稿は都立両国高校の生物部によって発行されたガリ版刷りのもので、根田先生の高校の同級生で、同じ生物部であった林浩二氏（現在、千葉県立中央博物館勤務、文中H氏）によって大切に保管されていました。中毒症状を克明に、また計時的に記録された本報告は、現在の大先生の姿を彷彿とさせるものがあります。本グループに属するきのこのによる中毒症例は、あまり知られていませんので、ご許可を得て再掲載させていただきます（編）。

# 生物部ユース

## タマネギモドキ ↓ 毒キノコ？

菌類班 根田仁

1974年7月1日このキノコはK教諭によつて発見された。花壇に群生し、K教諭及びN(2年)が数個体を採集。Nは、キツネノチャブク口の一種だと言つた。

午後4時頃

Nは試食することを主張。(キツネノチャブク口のなかまは、すべて食べられるキノコとされる)

串に刺し、焼き、塩をまぶした。

午後4時15分頃

試食をし、付近の人間に試食することを勧めた。

H(3年)、H(2年)、Y(1年)が応じる。Nは1個食べ、Hも1個、Yは半分食べた。Hは1個食べた後、「うまい」と言い、また1個を食べた。

### 「Yの症状」

午後4時半下校。何ら異常なし(帰宅途中、頭が時々ふらつく)TVを見ている途中、悪寒、頭痛を催し、吐き気を催す。(食欲、全くなし)

6時半 吐く。  
7時 再び吐く。以後、何ら異常見られず。

### 「Hの症状」

午後4時15分下校。何ら異常なし。お茶の水に行く。

5時頃 気分が悪くなり、S書店でしばらく休む。

6時頃

帰宅途中の電車内で座りこむ。

7時頃 気分が悪かつたが、無理して、食事を少量とる。  
10時頃 食塩水を飲み吐く。以後何ら異常はみられず。

以上が試食した者の症状である。これからわかる様に、食べた量によつて、症状が異なることがわかる。幸か不幸か3個食べた者はいなかつたため、このキノコを多量に食べた場合の症状はわからないが、2個食べた者よりひどい症状を呈するであろうことは明らかである。

なお、このキノコは後に調べ直した結果、タマネギモドキと判明した。図鑑には「食用にしない」とあるだけである。

タマネギモドキはキツネノチャブク口に類似し、写真、あるいは絵だけでは、初めての者にとつて、はつきりと区別することは困難である。注意を要する。